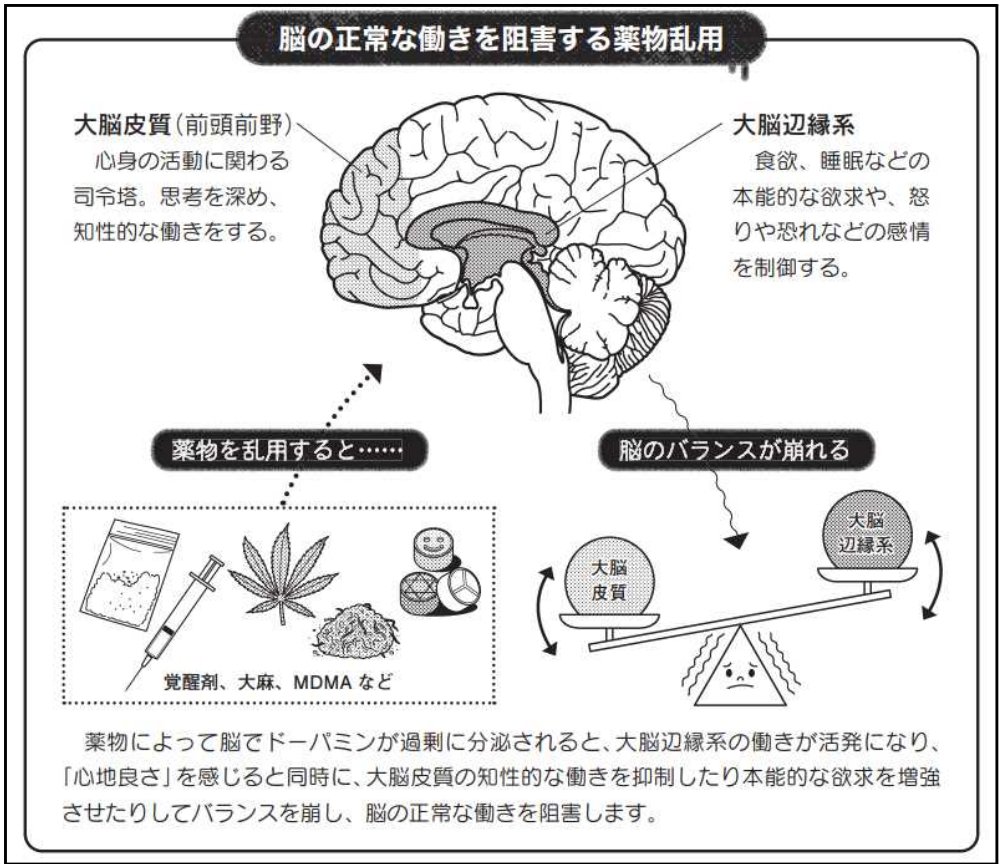
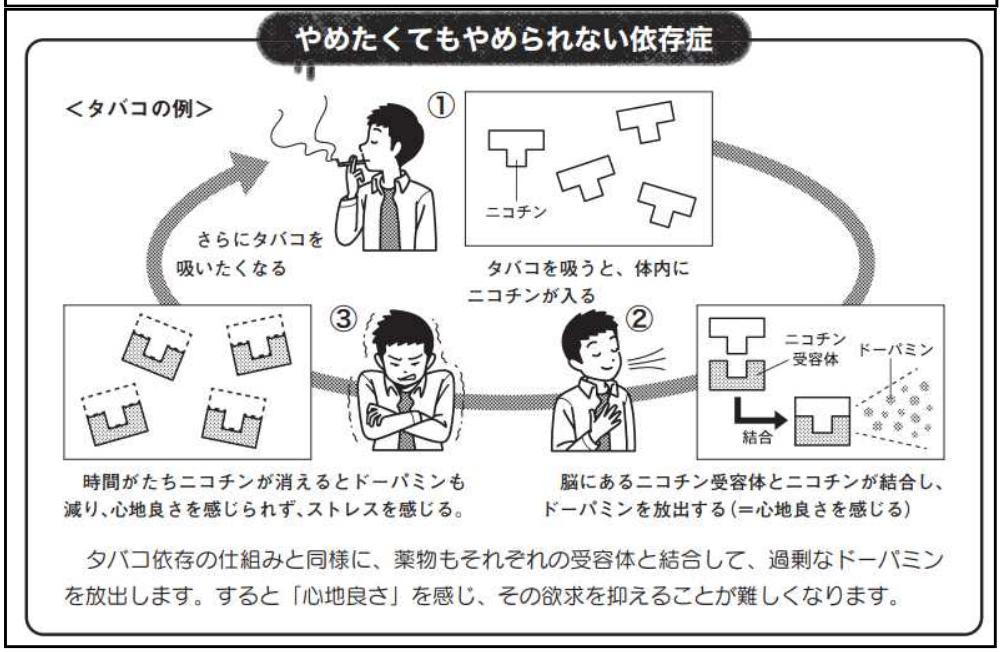
保健だより12月 NO.8 2023.12.19 市立浦和高校保健室

大麻依存の現状について

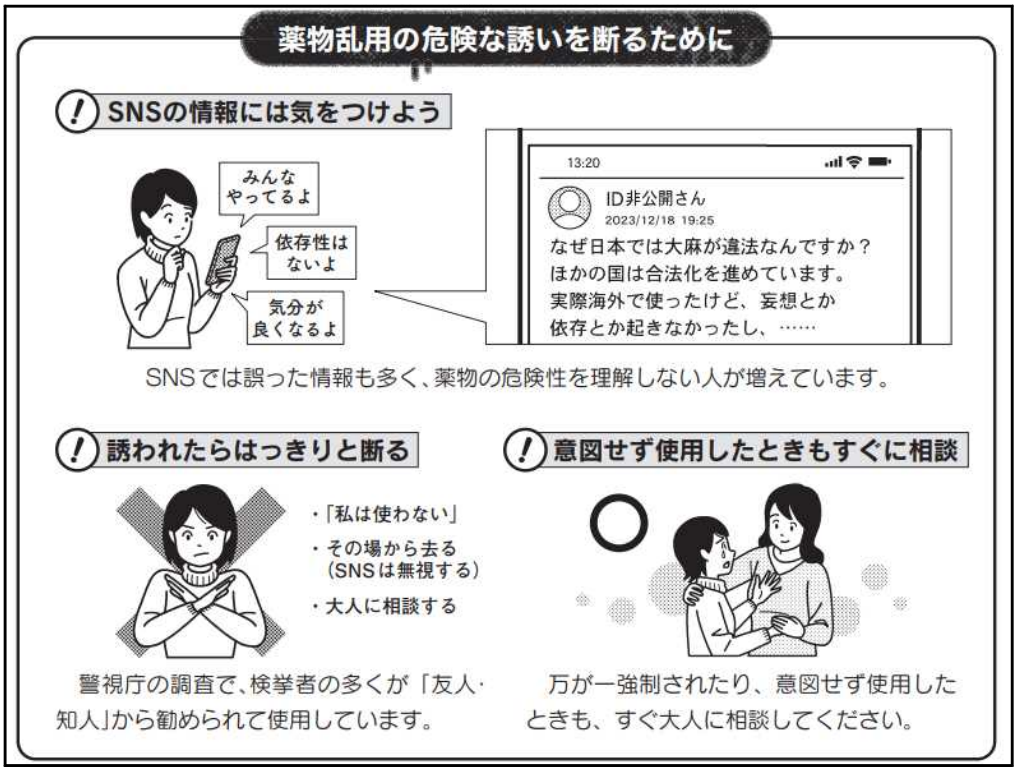
某大学運動部員が、乾燥大麻片と覚醒剤を所持していたことから逮捕されたことを発端に、同部内での大麻吸引に関する問題がニュースとして取り上げられたことは、みなさんの記憶に新しいことと思います。

依存性物質の種類は、モルヒネやコカインなどの麻薬、メタンフェタミンなどの覚醒剤、あるいは大麻、幻覚剤、有機溶媒など、多岐にわたります。大麻依存の問題が日本国内で拡大して、最近のデータではこの１０年で大麻関係の検挙者数の極端な増加が見られるようになりました。特に若者の間で急増し、令和４年には検挙者の約７割が３０歳未満でした。また、大麻の形状も、葉っぱのままではなく、成分抽出したワックスや、グミに混ぜ込むなど、多様化し、海外旅行の際にも気づかぬうちに所有・摂取することがないように気をつけないといけません。

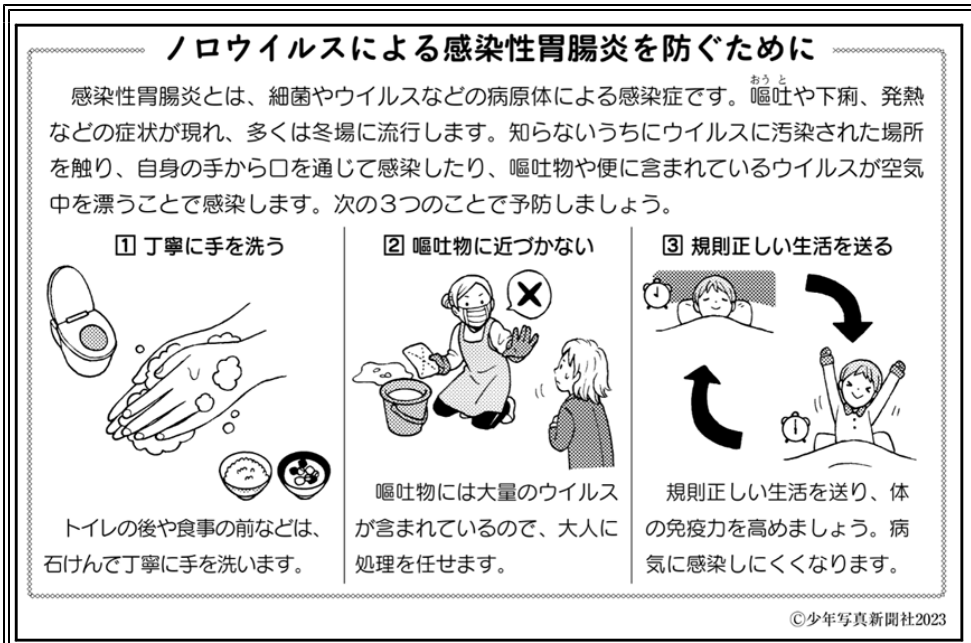
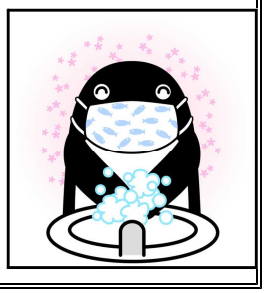




若者における大麻の拡散に関しては、インターネット、SNS等において、「（海外では合法だし）有害性がない」などの誤った情報が氾濫しており、青少年の大麻乱用の拡大につながっていると推測されています。実際には多くの国・地域で大麻は違法扱いです。また、合法にしている国・地域に関しても、安全だから・有害性がないからという理由で合法にしているわけではなく、「覚醒剤などのほかの違法薬物が蔓延するより、国が大麻を管理した方が害が少ない」、「大麻を合法化して管理することで税収が増え、反社会的勢力の収入が減る」などの後ろ向きな理由が大半です。実際、大麻を乱用すると、脳の知的機能や記憶の形成をつかさどる部位（海馬等）が縮むことや、大麻主成分のテトラヒドロカンナビノール（THC）には精神依存、身体依存が生じることが知られています。大麻に関する情報に関しては、SNS等の情報をうのみにするのではなく、正しい知識を身につけることが必要です。　年末年始は、出かける機会も普段より多くなると思います。「ちょっとくらいだったら…」といった気の緩みには、十分に気を付けてください。



引用資料：少年写真新聞社　高校保健ニュース第８０４号付録



少人数ではあるものの、感染性胃腸炎に罹ってしまう生徒もいるようです。インフルエンザ、コロナにも共通することですが、石けんでの手洗いが基本です。水の冷たい季節になりましたが、手洗いを励行して感染を防止しましょう。